

日本原子力学会 保健物理 環境科学部会
2004 年秋の大会 総会議事
(2004 年 9 月 16 日 12 時 ~ 13 時 K 会場)

議 事 次 第

1. 部会長挨拶 内田滋夫 (放医研)
2. 部会規約の改正について (資料 1)
3. 部会の体制について (資料 2)
4. 2004 年部会企画について (資料 3)
5. ICRP 調査研究連絡報告会について (資料 4)
6. 部会主催・共催シンポジウム等について (資料 5)
7. 2005 年春の年会以降の部会企画等について (資料 6)
8. 専門研究委員会の設置について (資料 7)
9. 委員会報告
10. その他
11. 副部会長挨拶 飯田孝夫 (名大)

以上

部会規約の改正について

保健物理・環境科学部会規約

(2000年1月27日 第419回理事会承認)

(2005年 月 日 第 回理事会改定承認)

専門分野別研究部会規程(規定第11号)により、保健物理・環境科学部会を本規程により設置運営する。

(目的)

第1条 保健物理・環境科学部会(以下本部会)は、原子力に関連した保健物理・環境科学分野の研究者間の研究交流と情報交換を積極的に行うとともに研究活動を支援し、その発展に貢献することを目的とする。

(部会員)

第2条 学会正会員および学生会員は本部会員となる資格を有する。

第3条 本部会に参加を希望する会員は、所定の事項を記入した入会申込書に部会費を添えて、事務局に申し出る。なお、退会の際はその旨を事務局に通知する。

(運営費、部会費)

第4条 本部会の運営費には、部会費、事業収入、寄付その他をもってあてる。

第5条 運営費については、企画委員会を経て理事会に報告し、その承認を得ることとする。

(総会)

第6条 総会を年1回以上開催し、本部会の事業、予算、運営等重要事項について承認を得るものとする。

(運営)

第7条 本部会の運営は、学会正会員の本部会員より選ばれた部会長1名、副部会長~~1名~~2名および委員若干名からなる運営委員会が行う。経常的な運営は部会長、副部会長および委員の中から選ばれた幹事若干名からなる常任委員会が専ら行うが、重要な事項については運営委員会の議を経て行うこととする。運営委員の任期、選考方法などは別に定める。

第8条 事業の実施のため、運営委員会のもとに小委員会を設けることができる。

(事業)

第9条 本部会は次の事業を行う。

- (1) 本部会の活動や研究関連の情報を提供するためのニュースレターを随時発行する。
- (2) 研究会、セミナー、講演会、講習会、見学会等を適宜開催する。
- (3) 必要に応じて、研究、調査及び評価等のための小委員会を組織し、研究者間の交流と関連分野の研究活動を活性化する。
- (4) 関連する研究専門委員会、特別専門委員会等の活動を積極的に支援する。
- (5) 関連する国内外の学協会、諸機関との共催による研究集会の企画、実施を行い、国内および国外協力研究を積極的に進める。
- (6) その他、適切な事業は随時、実施する。

(変更)

第 1 0 条 本規約の変更は、運営委員会の発議に基づき、総会での承認を要する。

日本原子力学会 保健物理・環境科学部会
第 3 期 (2004? 2005 年度) 委員名簿

【役員】

部会長 ; 内田滋夫 (放医研)
副部会長; 飯田孝夫 (名大)
副部会長; 本間俊充 (原研)
会計監査; 宮崎振一郎 (関電)

【運営委員】24 名 幹事 12 名

天野光 (原研) 飯田孝夫 (名大) 生瀬博之 (三菱マテリアル)
植頭康裕 (サイクル機構) 内田滋夫 (放医研) 占部逸正 (福山大)
小川喜弘 (近大) 金子正人 (放影協) 木名瀬栄 (原研)
小佐古敏荘 (東大) 下道国 (藤田保健衛生大) 杉浦紳之 (東大)
塚田祥文 (環境科研) 外川織彦 (原研) 服部隆利 (電中研)
福井正美 (京大) 二ツ川章二 (RI 協会) 本間俊充 (原研)
三浦太一 (高工研) 宮崎振一郎 (関電) 山澤弘実 (名大)
山西弘城 (核融合研) 山本英明 (原研) 米原英典 (放医研)

【事務局】

高橋知之 (京大) 飯本武志 (東大)

【学会委員】

企画委員	二ツ川章二 (RI 協会)	2003 ~ 2005 年度
	杉浦紳之 (東大)	2004 ~ 2006 年度
学会誌編集委員	山本英明 (原研)	2003 ~ 2005 年度
	服部隆利 (電中研)	2004 ~ 2006 年度
	米原英典 (原研)	2004 ~ 2006 年度
学会プログラム委員	山西弘城 (核融合研)	2003 ~ 2005 年度

【学会から要請された臨時委員会等の委員】

原子力安全研究特別専門委員会	二ツ川章二 (RI 協会) 山澤弘実 (原研)
JCO 事故調査委員会	本間俊充 (原研)
編集委員会学会誌モニター	上菘義朋 (理研) 塚田祥文 (環境科研)
	二ツ川章二 (RI 協会) 三浦太一 (KEK)
	宮崎振一郎 (関電)

2004 年部会企画について

2004 年春の年会

合同企画セッション (保健物理 環境科学部会、バックエント部会)

「放射性廃棄物地中処分と生態圏影響評価」(3月30日(火)9:00~12:00 F会場)

座長:放射線医学総合研究所 内田滋夫、日本原子力研究所 木村英雄

(1)放射性廃棄物処分における線量基準の考え方

東京大学 小佐古敏荘

(2)放射性廃棄物処分の安全評価における諸問題

日本原子力研究所 木村英雄

(3)廃棄物処分と環境防護

放射線医学総合研究所 土居雅広

(4)地層処分における生物圏評価のためのレファレンスパイオスフェアの考え方

原子力環境整備機構 内藤守正

(5)総合討論

2004 年秋の年会

合同企画セッション (保健物理 環境科学部会、放射線工学部会)

「低線量放射線リスクと社会」(9月16日(木)14:00~18:00 K会場)

第一部 司会:三菱総研 佐藤理

基調講演 1 「最近の低線量放射線影響研究の成果 (1)生物学的研究」

京都大学 丹羽太貫

基調講演 2 「最近の低線量放射線影響研究の成果 (2)疫学的研究」

鹿児島大学 秋葉澄伯

基調講演 3 「放射線教育」

放射線教育フォーラム 松浦辰男

第二部 司会:京都大学 高橋知之

基調講演 4 「低線量放射線影響に関する社会の認知」

甲子園大学 木下冨雄

基調講演 5 「低線量放射線影響と規制」

放射線医学総合研究所 米原英典

基調講演 6 「低線量放射線影響と放射線防護」

福山大学 占部逸正

パネルディスカッション 司会:東京大学 杉浦紳之

ICRP 調査研究連絡会 (放射線影響協会主催)

ICRP 調査研究連絡会は毎回、運営委員からの推薦者およびニュースレターにより出席者を募っている。今回は、運営委員からの推薦により、当部会より服部委員 (代理で伊知地猛氏) が代表として出席した。

平成 16 年度第 1 回調査研究連絡報告会」

平成 16 年 5 月 19 日 (水) JEMA ホール

ICRP 主委員会報告

以上

部会主催・共催シンポジウム等について

(1) 討論会「CRP2005 年新勧告の論点」

主催 : 日本保健物理学会 (国際対応委員会 企画委員会)

共催 : 日本原子力学会保健物理 環境科学部会

日本放射線影響学会

医療放射線防護連絡協議会

日本放射化学会

日本放射線管理学会

日本アイソトープ協会主任者部会

日時 平成 16 年 10 月 12 日 (火) 10 時? 16 時 45 分

場所 東京大学山上会館

(2) 企画シンポジウム「新しい障害防止法を考える」

主催 : 日本原子力学会 保健物理 環境科学部会 保健物理小委員会

共催 : 日本保健物理学会

日本放射線影響学会

日本放射化学会

日本放射線管理学会

医療放射線防護連絡協議会

日本アイソトープ協会主任者部会

日時 平成 16 年 10 月 20 日 (水) 13 時? 16 時 30 分

場所 東京大学山上会館

2005 年春の年会以降の部会企画行事等について

合同企画セッション 公開討論 放射線教育の現状と課題 (仮題)】

主催 :保健物理・環境科学部会

社会環境部会 (交渉中)

YGN (交渉中)

趣旨 (案) :

わが国ではすでに小・中・高校生や一般市民を対象とした放射線教育が相当の規模で実施されており、一定の成果を得ている。本公開討論では、国内の関係機関や組織が独自に実施してきた放射線教育の実態に関する情報を共有し、現在までにアンケート分析等により得られた知見や、リスクコミュニケーションの専門家による分析の結果などを整理することを主たる目的とする。また、今後の放射線教育に関して、短期的あるいは中長期的な展望をしつつ、あるべき姿について意見交換をする。討論には、原子力・放射線の専門家のみならず、幅広い分野の専門家や一般市民にも参加いただき、幅広い議論を展開する。

担当 :飯本武志、[飯田孝夫 (副部会長)、二ツ川章二 (企画委員)]

合同企画セッション 討論 保健物理・環境研究における若手研究者の夢 (仮題)】

主催 :保健物理・環境科学部会

放射線工学部会 (交渉中)

YGN (交渉中)

趣旨 (案) :

本討論では、若手研究者を中心に、保健物理・環境研究の醍醐味や今後の期待や抱負などを紹介頂き、これから研究を行おうとい若手研究者にアピールすることを主目的とする。また、広い世代の原子力・放射線の専門家や外国人研究者に参加頂き、これからの保健物理・環境研究のあり方などを整理する。可能であれば、組織観や仕事観などについても議論を展開する

担当 :木名瀬栄、[本間俊充 (副部会長)、杉浦紳之 (企画委員)]

いずれも詳細なプログラム等はWGを設置して検討する

以上

専門研究委員会の設置について

前回の専門研究委員会：

- 名称：「施設 環境放射能動態」研究専門委員会
- 期間：2001 年 5 月? 2003 年 3 月
- 主査：福井正美（京都大学）

今後の方針案

- ・本間副部長を中心として、2005 年 4 月をめどに新たな専門研究委員会を設置する。
- ・委員会の名称、設立趣旨、活動内容等を検討するための WG を設置する。
- ・アンケート等によって部会員の意見を聴取する。

以上